各国VIPおもてなし元日航CA江上いずみ氏太鼓判

元気 小室 王子様の笑顔

「非常に丁寧で真摯な印象」

17日、会見に臨む前、一礼する小室圭さん

午後6時過ぎ、勤務先を出て帰宅する小室圭さん（左から2人目）（撮影・清水優）

赤坂御用地を出られる秋篠宮家の長女眞子さま＝18日、東京都港区

秋篠宮家の長女眞子さま（25）と婚約する横浜市の小室圭さん（25）は、完璧なマナーを持ち合わせていた。17日の記者会見では、まさに王子様のような笑顔で落ち着いた対応を見せた小室さん。元日本航空国際線ファーストクラスチーフCAで、マナーとおもてなし学の第一人者、筑波大の江上いずみ客員教授に、小室さんのマナーをチェックしてもらった。

自然に「分離礼」

各国VIPと機上で接してきた江上氏の目に、小室さんはどう映ったか。江上氏は「これはやってはいけないという言動は一切なかった。非常に礼儀正しい印象を受けました」と太鼓判を押した。

17日の会見で、深々と一礼した小室さん。江上氏は「『よろしくお願いします』とあいさつをしてから、その後に頭を下げる『分離礼』が自然に出来ていた」と評価した。発声と礼の動作が同時になる「同時礼」が1つもなかった小室さんの所作を「非常に丁寧で、真摯（しんし）な印象でした」と評した。

一本筋の通った

会見で見せた礼の角度は90度近い礼だった。「立礼には15度の会釈、30度の礼、45度の最敬礼があります。銀行勤務の経験もある小室さんは45度の最敬礼もご存じと思いますが、それ以上に深く礼をされたのは、お人柄でしょう」と好印象だ。「首をひょこっと曲げるのではなく、頭、首筋、背筋、腰まで一本筋の通ったまっすぐに伸びた礼。一朝一夕ではできません」と評価した。

まだ婚約の正式発表も行われておらず、質問には「時期が参りましたら、お話をさせていただきたいと思います」の答えを繰り返さなければならなかった。「宮内庁からもかなりきつく言われ、多くの質問に答えられないことを覚悟して臨まれたのでしょう。それでも、記者の目を見て質問を聞き、答え、頭を下げる。誠意が伝わってくる受け答えでした」。

堂々と落ち着き

一般の25歳が、ある日突然、報道陣に取り囲まれ、すさまじいフラッシュを浴びた。「普通なら、表情が硬くなるところですが、堂々と落ち着いて、さわやかな笑顔。すばらしかった」。会見時、スーツの上着のボタンを2つとも留めていた小室さん。「本来は上の1つだけ留めますが、きちんとして会見に臨みたいという緊張感の表れ。これもお人柄でしょう。国際経験も積まれており、皇室の方とのご結婚に向けても、不安な点はないかと思います」。【清水優】

「普通なら表情が硬くなるところ堂々と落ち着いてさわやかな笑顔すばらしかった」

◆江上（えがみ）いずみ　日本航空客室乗務員として、各国のVIPへのおもてなしを経験。15年に筑波大客員教授就任。大学や官公庁、民間企業、小中学校で「グローバルマナーとおもてなしの心」をテーマに講演活動を行う。日刊スポーツ東京本社版では20年東京五輪・パラリンピックに向け、国内外から集まる観光客などをお迎えするための連載「お・も・て・な・し講座」を執筆した。

私服警官5人以上と電車で通勤

○…小室さんはこの日、前日のネクタイ姿とは一転、ノーネクタイのクールビズ姿で出勤した。紺色のスーツに白いシャツ姿で、普段通りの電車通勤で都内の勤務先に到着。終業後、電車で帰宅した。退社時には、正面玄関で報道陣に笑顔で深々と一礼。警視庁の私服警察官の警備が5人以上で周囲を固めた。宮内庁は、眞子さまが22日午前、両親の秋篠宮ご夫妻とともに東京・上野の国立科学博物館を訪れ、特別展「大英自然史博物館展」を鑑賞されると明らかにした。眞子さまにとって、婚約することが公になって以降、初めての公務となる。

結核予防全国大会に出席された秋篠宮妃紀子さま＝18日午後、札幌市内のホテル